



サケネットワーク総会の続報

去る10月18日に開催された北海道サケネットワーク総会では、役員の変更が行われました。その後、幹事の補充等があり、2015年度の新体制が整いましたので、改めてご紹介します。

代 表 (1名):	河村 博	(環境生態系保全アドバイザー)
副 代 表 (1名):	寺島一男	(大雪と石狩の自然を守る会代表)
事務局 長 (1名):	木村義一	(北海道サーモン協会代表)
幹 事 (若干名):	市村政樹	(標津サーモン科学館館長)
	千葉養子	(とがち・帯広サケの会会長)
	杉本伸司	(札幌市東白石小学校校長)
監 査 (2名):	安達宏泰	(北海道区水産研究所業務支援課長)
	山口洋一	(えにわ市民サケの会会長)
顧 問	浦野明央	(北海道大学名誉教授)

役員の内任期間は2年となっております。選出された方々の負担を少しでも和らげられるように、会員の皆様の更なるご協力をお願い申し上げます。共にネットワークを盛り上げて参りましょう。

サケの来遊状況

今年、沿岸と川で捕れたサケの数は、北海道区水産研究所がまとめている11月末日までの速報値によると、北海道の太平洋側が対前年度比96%、北海道の日本海側が74%、本州の太平洋側が90%、本州の日本海側が130%となり、地域間の差が大きくなっています。東北大震災の影響が心配された本州太平洋側の減少は今のところ目立っておりませんが、今後も注目しておく必要はありそうです。

博物館情報

豊平川さけ科学館：開館30周年を記念し、11月3日に「豊平川と野生サケを考える」と題したフォーラムが開催されました。フォーラムでは、科学館が立ち上げた、自然産卵とふ化放流を上手に組み合わせて資源を維持しようという「ワイルドサーモンプロジェクト」の紹介もありました。このプロジェクトは、札幌市が行なう“さっぽろ環境賞”の生物多様性保全部門の優秀賞に輝いております。おめでとうございます。

千歳サケのふるさと館：開館20周年を迎えたふるさと館は、12月1日からリニューアルのため休館になりました。来年8月までの長期休養後、当館はロゴと名称も新たに「サケのふるさと 千歳水族館」として生まれ変わるそうです。これまでとは違った展示も増えるようなので、乞うご期待です。

最後に、会員の皆様にはネットワークの運営に多くのご協力をいただき、感謝申し上げます。ありがとうございました。来年も、皆様ならびにネットワークにとって良い年になりますように。